

母校創立50周年

あれから10年



母校創立40周年記念祝賀同窓会
2013年3月23日
於アジュールひたちなか

記念祝賀会開催にあたって

勝田高校創立50周年記念同窓会祝賀会実行委員長
株式会社ソフナーズ代表取締役

同窓会副会長 阿久津 隆男 (7回生)

勝田高等学校創立50周年、まことにおめでとうございます。

私が入学したのは今から40年以上前、創立7年目で、歴史も浅く自由な校風でした。特に文化部に所属していたせいか、先輩後輩の垣根

もなく、毎日楽しく学校生活を送っていました。

今となってはもう残念ながら、授業で教えていただいた事はあまり覚えていません。ですが、不思議なことに恩師の口癖はよく覚えています。何なら再現できます。私の周りの同級生も多分できるでしょう。思い出すととても人間味溢れる先生が多かった印象があります。時代は変わりましたが、そのような校風は今も引き継がれているのではないのでしょうか。

あれから40年経った今も、同窓生との関係は続いています。話の内容はあの頃とあまり変わっていません。少し血圧や腹囲の話題は増えましたが。顔を合わせるたびに当時の恩師や同級生の話題に花が咲きます。その一つ一つをここに書くにはあまりにも紙面が足りません。(コンプライアンス上、今では書けないことも。)

創立50周年を迎えた今年、同窓生の皆さんとこのように盛大にお祝いできるのはとても幸せなことだと思います。そして同時に本校は「勝田中等教育学校」として新たな歴史を刻み始めました。今後も引き続き、同窓生として本校の発展に少しでも協力できれば光栄です。



勝田高等学校同窓会

創立50周年記念祝賀会に寄せて

茨城県立勝田高等学校長

下山田 芳子

このたびは、勝田高等学校の創立50周年を記念する祝賀会の開催まことにおめでとうございます。

また、勝田高等学校の創立50周年記念式典ならびに記念事業の実施にあたりましては、実行委

員会副委員長を務めて頂きました同窓会会長の黒澤敦様をはじめ、多くの同窓会の皆様に多大なご支援、ご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。あわせて、記念事業の一環として、同窓会から職員玄関の「記念品ショーケース」を寄贈していただけるとのこと、生徒ならびに職員一同、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

本校は、今から50年前に「勝田市に県立普通科高校を」という地域の方々の熱い要望により、当時の市議会が県に陳情をして勝田市に誘致した、勝田市唯一の県立全日制普通科高校として昭和48年に誕生いたしました。当時の写真を見ると、周辺は山林原野で、グラウンドは湿地のため水はけが悪く、自衛隊の方々が砂をうめて整地して下さったと聞いています。本校の校訓「隣人（とも）と協力して、明日の郷土を拓こう」という言葉には、まさに、教職員・生徒・保護者・地域が一体となって、力を合わせて新天地を切り拓かんとする当時の決意があらわれております。そしてそこには、これから隆盛を極めていく日本経済の力強さと、それを支える地域の躍動を感じることができます。

それから半世紀がたち、日本は、「昭和」「平成」「令和」という時代の変遷の中で、高度成長期という壮年を過ぎ、世界に類を見ない早さで少子高齢化という大きな社会課題に直面する円熟期に入ろうとしております。そうした日本の国としての歩みとあわせるように、本校も新たな未来に向けて、第一歩を踏み出しました。令和3年4月に本校敷地内に、ひたちなか市初の中等教育学校となる「勝田中等教育学校」が開校したのです。本校は今後4年間かけて、これまで勝田高等学校が担ってきた「地域の発展を支える人財の輩出」という使命と伝統を勝田中等教育学校に徐々に受け渡し、令和8年度には、時代の変化と地域の要望に対応した中等教育学校に生まれ変わることになります。そして、その頃には、勝田高校の半世紀の歩みを象徴する様々な記念の品が、寄贈していただくショーケースに展示されていることでしょう。



しかし、「地域を支え、地域に愛される学校」という勝田高校の精神は、これからも生徒たちの心に生き続け、貴同窓会は勝田高校、勝田中等教育学校の卒業生がともに集う場所として、今後ますます発展されることと確信しております。

最後になりますが、これまで50年間賜りましたご厚情に重ねて御礼申し上げますとともに、どうか今後も勝田高等学校とその後身の勝田中等教育学校に、かわらぬご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

創立50周年に寄せて

茨城県立勝田高等学校
学内幹事

鈴木 昌幸 (5回生 ラグビー部)

勝田高等学校創立50周年、誠におめでとうございます。

私事ですが、昨年度、勝田高校で無事定年を迎えることができました。高校生として3年、そして教員として17年、計20年もの間母校と共に歩んで来られたこと、大変ありがたいことと実感しております。勝田高校から巣立った卒業生は数多くあれど、20年という歳月を勝田高校で過ごしてきたのは、私だけなのではないでしょうか。

さて、今思い返すと、勝田高校で高校生として過ごした3年間は、ラグビーに明け暮れた日々でした。恥ずかしながら、ラグビーしか私には無かった、と言っても過言ではないでしょう。ですが、他の誰もが経験できないような多くのことを学ぶことができたと自負しています。

そんな私ではありましたが、大切なことをお教えいただき、成長させていただいた恩師に憧れ、体育の教師となることを新たな目標としました。いつか母校の教壇に立ちたいということを夢見て、時間はかかりましたが、平成18年4月、44歳の時、ついに夢を現実のものとすることができました。

しかし、教員として母校に戻ってきた時、私の思い描いていた勝田高校とは程遠いものでした。お世辞にも、穏やかに日々を過ごすことができる、とは言えない状況だったのです。そのような中で、3年間担任をした後、生徒指導部長という大命を預かり、良き勝田高校となるよう11年間、



ひたすらに努力しました。生徒指導はさることながら、学習環境の整備、校内の清掃など、あらゆることを勝田高校のためにしてきました。とはいえ、勝田高校を良い学校にしたいという思いは先生方も同様でした。同窓生である現勝田工業校長勝村先生（7回生）を含め、多くの人々の手を借りて作り上げてきた勝田高校の校風なのです。

その甲斐あってか、現在の勝田高校生は特別に指導をせずとも、落ち着いており、優しく、素直で明るい生徒が、日々自分の目標へとひたむきに努力することができる学校へと変わっていききました。

そして、何よりも私が力を入れてきたことは、ラグビー部の指導です。私の人生を形作った大切なスポーツを、勝田高校の監督として後輩に指導することとなりました。時には鞭のように厳しく指導することもありました。しかし、それ以上にラグビーがもたらしてくれる飴のような素敵な経験を、後輩にも味わってもらおうとの思いから日々の指導にあたりました。

ラグビーが繋いでくれたかけがえのないOBとは、今でも親交を深め、互いの人生の節目では喜びなどを分かち合っています。時には酒を酌み交わして語り合ったり、情熱をぶつけ合ったりと、とても楽しい時を過ごしています。

勝田高校で出会えた多くの良き仲間たち、そして生徒たちが、私の人生を豊かなものにしてくれました。また、私の人生の中でも最良の日々を母校で過ごさせていただいています。本年度をもって、勝田高校の入学生募集が終了してしまうことには、一抹の悲しさを覚えますが、勝田中等教育学校へと変遷していく姿を、最後まで見届けたいと思います。

最後に、勝田高校・勝田中等教育学校の益々の発展を祈念し、結びの挨拶と致します。

創立50周年に寄せて

茨城県警察本部 警視

銀杏会会長（茨城県警内同窓会）

田山 智治 (6回生 テニス部)

勝田高等学校が創立50周年を迎えられますこと、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。これもひとえに創立当初より献身的に教育に対して情熱を燃やし、生徒の指導に当たってこられた教職



員の方々の並々ならぬご努力、さらには物心両面にわたって支援してこられた保護者、保護者、同窓生、地域の方々のご尽力の賜物であると、卒業生の一人として、深く感謝と敬意を表します。

私は、昭和53年に6回生として学校の門をくぐり、それから今年で44年を迎えます。当時はまだ開校して日が浅く、手探りで進みながら作り上げていく萌芽期だったと思いますが、今では、歴史を重ねながらしっかりと根を下ろし、生徒を迎え、送り出していることに嬉しさと誇りを感じています。卒業生は60代半ばを筆頭に幅広く社会を支え、各方面で活躍しており、私自身も様々な場面で同窓生と交流できる機会を楽しみにしておりますが、これまでに仕事の関係でお世話になった同窓生の方々が幾人もおりました。会話の流れで「勝田高校卒業なの!」と初めて同窓生であることがわかった、それだけで共助の精神が芽生え、良好な関係を築くことができました。ありがたいことです。

ところで、私どもの職場内には、融和団結を図り、県民の皆様の安全・安心を守ることを目的として、勝田高校卒業生が会員となる茨城県警察勝田高校OB会「銀杏会」が存在し、退職した者を含めると、これまでに134名が本県警察職員に奉職し、現在は現職として111名が県内の治安維持のため活動しております。

折角の機会ですから皆様に治安情勢などお伝えしたい点を申し上げます。刑法犯罪は、警察が認知したものだけでも毎日40件、空き巣等の侵入窃盗や自動車盗も毎日約7件ペースで発生認知され、交通事故につきましても、人身事故のみに限っても毎日16件、物損事故を含めたすべての交通事故は毎日180件のペースで発生し続けております。そのほか、高齢者を標的とする二セ電話詐欺も高水準で発生しております。

『反射材を付けてください』『ご自宅の鍵かけをお願いします』『県警防犯メールを登録してください』『二セ電話詐欺被害防止に向けた留守番電話設定をお願いします』

そして、皆様が社会の模範となって、自助行動を実践し、周囲の方々にも同様の行動を促していただけるよう、どうぞ、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、母校がこれまでの歴史と伝統を継承しつつ、新しい時代に向けて、更なる飛躍を遂げられますことと、同窓会のご発展、同窓生の皆様の益々のご活躍、ご健勝を祈念申し上げます。

○2021年11月にご逝去された本田先生
(元オケ部顧問)を偲ぶ寄稿が届いています。

お祝いの言葉と恩師へのお礼

須藤 敦 (2回生 オケ部)

この度は県立勝高等学校創立50周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。と同時に50年の間にたくさんの卒業生を輩出され、地元茨城をはじめ全国各地で企業活動、社会貢献活動また芸術の分野でも活躍されている同窓生の話を聞くととても胸が熱くなります。



とは申しまして、勝田高校時代私自身さほど模範的な生徒ではありませんでしたし間違っても未来ある生徒さんにこれからの指標などお伝えするほど大それたことなどできませんが、一つだけ大切な思い出として皆様にお伝えできればと思います。

当時私は吹奏楽にドはまりでした。と申しますのは中学校3年間で3回とも茨城県の吹奏楽コンクールで金賞を受賞するといった、大変恵まれた環境で部活動を行って参りました。なので勝田高校入学式の翌日にはすでに吹奏楽部入部の申し込みを済ませ、得意げにサックスを吹いていたのを覚えております。しかし当時は音楽室などという大それた部屋はなく、校舎2階の一番道路側の教室で机といすを教室の片隅に追いやりもちろん指導者など不在のまま各自渡された譜面を追っていました。

そんな吹奏楽弱小高にあるとき大変な事件が起きました。「おい! 今度吹奏楽コンクール全国大会で金賞を取ったすごい先生がやってくるぞ!」というのです。正直私は半信半疑で「そんな漫画みたいなことは起こるはずがない」と高をくくっていましたが・・・来てしまいました!

その先生こそが私が生涯忘れることのできない高校生活を送ることが出来た恩師「本田忠義先生」です。

朝礼での紹介を終え部活の時間、すでに先生の周りには十数人の輪が出来ていました。当時私は素直な性格ではなく朗らかに話す本田先生を遠巻きに観察し「はじめだけ優しくあとは絶対厳しい練習が待っているんだ」などと先生とは少し距離を置いていました。

しかし先生はこの私の思いを知ってか知らずか、気が付いてみたら夏の合宿では、短パンにランニングシャツといたいで立ちで見事に私の期待を裏切ってくれました。練習では「や〜かーまーしい！」が口癖で何度もなく注意されましたが決して荒ぶることなく、そして誰とでも分け隔てなく接してくれる本田先生。アニキと呼ぶには少し年も離れていましたが、同じ吹奏楽コンクール金賞という目標が私達と先生を結びつけるのに時間はかかりませんでした。

夏の合宿ではマウスピースにあたる唇の痛さをこらえ、必死に先生のタクトに食らいついていった私達・・・見事に3年連続「銀賞」でした。

「何かあったらオレが守ってやる！」この男気が当時シラケの世代でもあった私たちの唯一の支えでもありました。

進学で悩んでいた私に「おい須藤、音大に行ってみないか？」と声をかけてくれた先生。「先生にそんな力があるの？」・・・本当でした。残念ながら家庭の事情で私の希望はかないませんでした。このようなやり取りは先生と3年間を過ごした生徒さんにはいくらでもいらっしゃるはずで

す。大学でパチンコばかりしていた私でしたがサックスは忘れませんでした、会社に入って残業ばかりの時でも部屋の片隅にサックスは有りました、そして今でも40年以上前の先生との思い出の詰まったサックスを吹いています。しかし、残念なことですが先生は昨年79歳の若さで生涯を閉じてしまいました。「ありがとうございました」の一言が言えなかったことが今でも悔まれます。でもこんな文章を読んだらきっと先生はこう言うでしょう。

「や〜かーまーしい！」

勝田高校の思い出

大角嘉治 (10回生 オケ部)

人生で恩師と思える人に出会えるのは、どれくらいの確率であるんだろう。そう思える師に出会えるのは、とても幸せな事だ。

私は、高校に入学してから、県内唯一のオーケストラ部に入部した。楽器は、身体の大きさ等から、チェロを弾る事になった。3年間、ずっと続けて、何度かの演奏会も楽し



んだ。

私は、高校卒業後、進学よりプロスポーツ選手を目標にしてしまった。オーケストラ部、運動は好きでも無い、戦う事も好まない。体育の成績は、3である。ところが、競輪選手という職業に就ければ、年収1千万円も夢ではない、という情報を聞き、自転車がもの凄く好きだった高校時代の私は、競輪選手に成る事を夢見るのだった。実際の競争も見ただことも無い、自転車という大好きな機材を使って、身体一つで自分の為に稼げる将来が、あるかもしれない、という想像だけで。

当時、親と反目しあっていたころ、部活動の顧問に相談をしたのだ。顧問の本田先生は、オーケストラ部顧問にして、ピアノの名手、その上、ボクシングにも通じていた変わり種である。だからなのか、私の競輪選手の夢の為に、きちんと相談を受けてくれた。そして、応援してくれたのだ。

相談をした翌日から、11期卒業の伊藤聖幸君にも協力していただき、4階までの外階段を20往復を、部活終了後毎日、という課題を続けた。伊藤君は、20回の階段昇降が終わるまで、毎日カウントをしてくれた。本田先生は、終わるのを待って、音楽室準備室を施錠してくれていたのだ。

そして、私は、一旦大学に入学はしたが、59回生として、日本競輪学校（現在は、競輪選手養成所）に入学し、プロの選手としてデビューしたのです。選手になってからの成績は、並の選手で、大した選手には、なれなかったですが、運動が好きでも無く、体育の成績3の私でも、充分と選手らしい生活は、送れたのでした。

ある日、競輪の事故で脳挫傷をして入院したころ、運動が好きでも無い自分、戦う事が好きでも無い自分に気づき、選手生活は、5年で幕を閉じたのですが、その後の人生に於いても、なにかを成し遂げなければ、なんとなかなれるものだ、という人生の送り方を教えてくれたのが、本田先生なのだ、と、しみじみ感じる次第です。

令和3年に本田先生は、お亡くなりになりましたが、自分がもっと成功して顔を見せたい、等、余計な事を考えて、余り交流出来てなかった事が悔やまれました。卒業して、40年が経つ今でも、先生が、頭から否定せず、応援までしてくれた事で、自分の人生が豊かで実りある後悔の無い物になった。その事に感謝しております。勝田高校に入学して、よかった



同窓会会長vs現役高校生

嗚呼青春の座談会！

母校創立50周年を記念しまして、当会報でも特別企画として同総会会長黒澤敦さんと現役高校生の座談会を企画しました。高校生の将来にかかる個人情報等が記載されますので発言は仮名で紹介させていただいています。

【参加者】

◆同窓会（卒業生）

黒澤会長(5回生)、佐藤久彰(13回生)、関久美子(13回生)、田中優子(23回生)、司会：佐藤真人(7回生)

◆高校生

3年生：岡野凌士、細島達也

2年生：大久保那奈、小野まりあ、沼田心寧、三村琴子

◆鈴木先生、大内先生

2022年9月24日9:00-10:00（母校学習館にて）

第一の議題

【高校生活で一番大事なことは？】

司会「まず、黒澤会長からご自身の経験をお話しいただきましょう」

黒澤会長「高校時代は部活に熱中し勉強はほどほどだったと思います。そんななかで特に大事な、と思ったことは、友達を裏切らないこと。その結果高校卒業してから40年以上、付き合いのある友達もいます。大人になっても友達がいるということは人生の中でも重要なことだと思っています。コロナ下でいろいろ制限がある中過ごされている皆さんに対して大事な時間をもっと有意義に過ごしてもらえると良いのにな、と思っています。」

これに対して

高校生「勉強と友達、どっちを大切にすればよいでしょうか」との質問に

黒澤会長「どっちも大事だし、どっちもおろそかにしてはいけないと思いますよ。勉強はすればするほど将来の選択肢が増えますし、友達はやはり自分の人生にもプラスになります」

高校生「自分は今受験勉強に必死だけど、生徒会活動や部活なども全部つながっている、という思いもあるので全部一生懸命取り組んでいます。」

黒澤会長「私が言いたかったのもまさにそのことなんです。どれか一つでもおろそかにしちゃうと全部に影響出るから、なるべくどれも一生懸命に取り組んでほしいと思っています。」

高校生「受験生でも文化祭など、楽しむべきところは楽しんでます。勉強のことでも友達と話すことが



あり、そういう意味で勉強も友達も良い関係を保っています。」

高校生「わたしはいくつかのことを同時にやっているとどれも一生懸命になってしまい、結局キャパオーバーになって困ってしまうので勉強も遊びもある程度比重をかけています」

高校生「自分は内気で高校を選ぶ時も自分の意志ではなかったのですが、高校に入ってから周りに刺激を受けて内気な気持ちもなくなり、部活も続ける強い気持ちが持てました」

黒澤会長「卒業後ほとんど縁がなかった母校ですが、実は私の娘も勝田高校で、部活のお手伝いなどをしているうちにPTAの役員をやることになりました。学校の担当が鈴木昌幸（旧姓根本）先生で（ここで高校生が「うふふ、」とざわつく）、彼は高校時代の同期で、ここでも『つながり』を感じましたね」

第二の議題

【どんな大人になりたいか？】

高校生から順番に将来の夢などをお話ししてもらいました。

高校生「法学を学んで弁護士になる計画を立てています。法科大学院のコースか予備試験のコースがあり、どちらも一般的には法学部の大学院に進まないと人数的な制約（受験制限）が出てきます。とても難しい学校なのですが将来弁護士になった時もつながりが期待できるので今必死に受験勉強に取り組んでいます。裁判官でも検察官でもなく弁護士に進みたいのはその後の国際系の仕事に取り組みたいからです。」

高校生「医学部を目指しています。医療従事者のつながりや連携に役立つ仕事がしたいと思っています。そう思ったのも祖母の病気(脳梗塞)がきっかけで、できれば脳外科への道を進みたいと思っています」

同窓生「お二人のお話を伺って、将来の目標というより、すでにビジョンが描かれており、そのために今しなければならないことを十分理解され実践されていることが伝わってきます。とても立派で感心させられました」

黒澤会長「早くドクターになってもらって、命を救ってもらいたいね」

司会「今のお二人はすでにご自身がやらなければならないことを実践されていますが、ほかの方々もお二人のお話に臆することなくお話してください」

高校生「自分は高校一年生の時のキャリアディでJICAの方のお話を聞く機会があり国際系の仕事をしてみたいのですが、親が公務員になって安定した仕事についてほしいと言われている」

これに対して卒業生から全く違う三つのアドバイスがあった。一つは親の希望との妥協点をさがしては？という意見と、公務員はもうちょっと先でも試験受けられるから、今やりたいことを今やってみては？という意見。もう一つは「どっちにしようか迷ったとき、正しいほうを選ぶ傾向があるけど、楽しい方を選択するのもありだと思う」で、このなかで「若さは消耗品だから」という名言がQちゃん（関久美子さん）から飛び出した。自分がやりたいことをやり通す、というのも若さの特権だと思いました。加えて「若いうちは失敗も無駄もないから臆せず取り組んでくださいね」というアドバイスもありました。

高校生「自分の将来は全然決まっていなくて、気分屋で自分でも困っている。今の気持ちは自分が大きなけがをしたときにお世話になった理学療法士のように人に役立つことがしたいかな、という感じです。」

同窓生「やりたいことが決まっていなくても強制的にいくつかの目標を設定してみると良いかもです。例えば理学療法士も資格を取るためには大学では4年かかるところ専門学校では3年で資格取得の権利を得ます。つまり1年早く社会に出ることが可能で、目標を設定すればそのために今やらなければならないことも付いてくると思いますよ」

高校生「夢ははっきりしないのですが、そんな中でも大切だなと思っていることがあって、人とかかわり方がうまくできない人のサポートがしてみたいなと思っています」

黒澤会長「目標を持った仕事にうまく就いたとしても人間関係などで心を病んでしまう方も結構います。環境は選らべないから運と思ってそこからの情報収集や改善に尽くすことも考えておいてください。」

同窓生「もし、将来悩むことがあったら使っていたきたいのが同窓会です。数千人いる同窓会会員の中には業界トップの方もいますし、いろいろな方と話す機会もあります。是非とも同窓会を頼ってください。」

大内先生「将来のビジョンを早く決めなさい、というのは社会が急速に要請し始まったことなんです。

『夢見る少女でいられない』のではなく『夢見る少女』でいてほしいのですけどね。」

高校生「芸術が好きで将来ミュージカルなどの舞台の仕事ができればいいな、と思っています。現在はバレエのスクールに通っています。一年生特進コースだったのですが勉強のことで周囲と温度差を感じ、両立に苦しんでいます。」

同窓生「小さいころから自分の意志で続けられることって素晴らしいことで、ほかに興味が出て辞めちゃうとかじゃなく、勉強以外にもやりたいことがあるって、高校生らしくて良いと思う。勉強とどっちを選ぶ？というのではなく『将来にわたって好きなことがある』って素晴らしいことだと思いますよ」

同窓生「自分の人生について思いっきり悩めるのも25歳くらいまでだと思う。やってる本人はつらいと思うけど、とても良い時間だと思うし、将来、血となり肉となることだと思いますよ。良い時間を思いっきり苦悩してください。一生豊かになる良いきっかけだと思います。」

司会「時間も参りましたので、そろそろ黒澤会長に締めさせていただきます。」

黒澤会長「本日は貴重なお時間ありがとうございました。皆さんのお話が聞けて私たちもさらにいろいろな思いを胸に抱くことができました。所詮悩みは何歳になっても続きます。その場その場で自分の考えに沿っていろいろな選択肢を選びながら自分に合った道を見つけてほしいと思います。今日はどうもありがとうございました。」

大人から見た高校生の時に「こうしてみては？」という思いに対して現在の高校生のしっかりとした考えを聞かされて、将来こういった若者のお世話になるなら安心だな、という思いで参加できてよかったです。（ま）

50周年記念思い出小ネタ集

【恩師編】

注意：先生のお名前は、時には愛情を込めて、あだ名で表記しています。ご容赦くださいw。

◆7回生 山口律子

テニス部だったのに、関先生に「いいケツしてるから！」と言われ1週間だけ、空手部に入らされた。「いいケツしてるから」は、今ではかなりのセクハラだよな〜。結局、会う度に全国大会に行けるから空手をやれ！と言われてた。テニス部じゃ無理だろ!! って。あまりしつこいから、1週間限定でやってみた〜

◆7回生 関敦子（旧姓細川）

ホームルームの時間に料理を作って食べるという企画があり、私のいた班はお好み焼きを作りました。それぞれの班毎に、出来上がった料理をお世話になっている先生にも食べてもらうことになっていて、私たちの班は英語の小松先生にお好み焼きを届けました。男子が小松先生のお好み焼きにだけ、ふぎけてお砂糖をたくさん入れました。食後に食器を下げに伺うと、小松先生からお礼の手紙が添えてありました。

「ご馳走様でした。私はお好み焼きというものを初めて食べたのですが、なかなか美味しいものですね。」小松先生、大人だなあと思いました。

◆6回生 神野泰司

数学で0点？赤点だった生徒全員（多分、私を含めて10人近く居たような？）がジッチから鉄拳制裁を受けたことでしょうか🤖

【匿名】

一応バイト禁止だったんだけど学校近くのGSでバイトしていた子が先生が来てびっくりしたけど、割引券あげたら『また来るから頑張れよ』って言われたけど、やたらと授業で指名されるようになったって嘆いてた

【匿名】

11回生～15回生くらいの恩師の思い出

安藤勝敏校長

多分、在学の生徒の姓名を全部ご承知されていた。廊下を走ったりしていると、名前を呼ばれて注意を受けたり、名前を知っていることに驚いた！天皇が筑波山に見えた際に、お側で植物の解説をされたとのこと。サスガ！水戸藩御文庫奉行お家柄！

榊井師（国語科）

- ・名前の通り、睡眠薬のように眠くなる授業
- ・ほぼ朗読と漢字の読みぐらいしか授業しないでテストに入る、恐ろしい手抜き
- ・テストを返したあとに正解を発表され、明らかな採点ミスを絶対に認めない、人間性に問題ある教師だった

仲田師（数学科）

- ・将棋が強いのは良いのだが、人の手にとやかく五月蠅くて将棋にならない

中島師（生物）

- ・なんにおいてもかなりコクのあるネタの宝庫とも言えるべき師であった

菊池師（体育科）

- ・飛んできたサッカーボールを顔で受け、笑顔で突進してくる師に恐怖と尊敬。

清水正美師

- ・授業は漫談調で楽しかったのだが、文法の内容はよく分からなかった
- ・映画の知識、冗談は最高であった！

植田道也師

- ・英語の授業は単語や熟語の訳だけ、あとは意味不明な自慢話・・・
- ・師の学生時代の所属部活は7つ以上あり、ウソツキであった。

倉林師

- ・チョークが折れんばかりの筆圧で熱い授業であったが、よく分からなかった。
- ・ジッチに泣かされていた。ジッチは翌年水商に行かれた

◆16回生 川村尚弓

現国の三次先生が放課後にこっそり指導してくれたおかげで感想文コンテストに入賞。才能があると思ひ込み、いろんな賞に応募しているうちに、本を出せるようになりました。今年は応用心理学会で齊藤勇記念出版賞をいただきました。



川村尚弓さん近影2022年9月
応用心理学会にて表彰。現在、
執筆、講師、コメンテーター、
社長業と幅広く活躍中

◆7回生 佐藤真人

生涯で一度だけ体育で『5』をもらった。思い当たるのはサッカーの実技テストで、先生が蹴ったラストパスが高すぎて胸トラップしようとしたらそのままゴール、ってことがあったがそれかな。。と思いつつ、出席番号が一つ上の佐久間君が初めて体育5じゃないって泣いていた。。先生、間違いは誰にもありますよね？

【匿名】8回生

修学旅行の夜間自由行動で、ヤバそうな連中がすれ違いざまに頭を下げている。そこにはいつもジッチがいた。

【匿名】7回生

オケ部の夏合宿、父が差し入れてロックアイスを持ってきてくれたが、速攻で体育教師でラグビー部顧問のAPON先生に今晚OBたちと呑むからと言ってカッアゲされた。

◆6回生 中田由彦

三年生の時の担任が磯崎先生ですが、美術関係者に「磯崎俊光の教え子です」と自己紹介すると、半分の方は驚き、半分の方は『あ、教員時代の』と、特に県近代美術館の方はよくわかっていらっしゃる。



磯崎先生近影2022年7月
ギャラリー「サザ」にて
隣は6回生萩谷旬子さん
日本料理いさ美女将、茨城
県女将の会でも活躍中

【部活編】

◆24回生 大内聖仁

私はハンドボール部だったのですが高校3年生の最後の県大会で大会当日バスに乗り遅れそうになって、自転車を校門に停めたままバスに乗って大会に出たのです。まさかの日大を破って県ベスト8まで勝ち上がったのですが学校に戻ったら自転車が盗まれて無くなってました...

【匿名】

在学中、ハンド部の公式戦が本校で行われた際、相手選手に倒されて救急車に運ばれました。その際、意識確認された時、名前とは聞かれ「はなこ(仮名)」と答え、名字とは聞かれ「やまだ(仮名)」と律儀に答えたそうです。本人は全く記憶がなく、仲間から後で聞かされた話です。。。お恥ずかしい笑笑。結果脳しんとうで、無事なんともなく、、ちょうど自分のクラスが体育で外にいた事もあり、注目と軽〜く笑い話となりました。救急車を呼んだ初の人となったかも!?チャンチャン♪普通名前はって聞かれたら名字と名前を分けて答えませんよね笑笑

◆6回生 井口三月(旧姓高橋)

写真部からモデルのオーダーがJRCの女子に、、えっそんな〜って思いつつまんざらでもなく快諾？出来上がった写真を見て、、気付く、だしに使われた〜、、オーヤンとイチチャンみんな認める美人仲良しペア、写真に映ってる綺麗なオーラが違う！これを撮りたかったのか写真部の男子は！なんてこった、、でもその時の写真は今でも宝物です、声かけてくれてありがと

◆6回生 井口三月(旧姓高橋)

勝高ラグビー部かつこよかったよねー
雨の日でもグラウンドで走ってた、教室のベランダからみんなで見て、キュンキュンしてた、、

◆9回生 佐藤由季(旧姓安掛)

野球部マネージャーでした。在学中の思い出として、大久保(デーブ大久保。西武→巨人)がいた水商に勝って県ベスト8になったことを今でも誇りに思っています。

【匿名】8回生 ラグビー部

合宿所が無かった時代、教室に布団を敷いて寝ていた。合宿最終日にN先輩からKマネージャーの寝た布団を持って来いと命令された。変態のN先輩は「これがKさんの匂いか」と興奮しながら布団にくるまっていた。今なら言える。そんなわけないだろう。顧問のS先生の布団です。



【行事編】

◆23回生 田中優子

修学旅行は、私立は韓国やカナダが主流。公立は飛行機に乗れないっていう暗黙ルールがあつて、当時は広島が基本。で、私たちの代で『だったら本州の1番下まで行こう』ってなり、萩・津和野。その粘りが功を制して、次の年から沖縄！！

その後は沖縄から北海道を選べるようになったハズ

【匿名】

球技大会で燃え過ぎ、バスケットの試合中に膝靱帯を2箇所切断。高校時代に人生で1番痛い体験をしたため、出産のときの痛みも余裕でした。

◆6回生 井口三月(旧姓高橋)

勝歩会11km走る！運動音痴組の4人組歩かず走り切る決意を固める！歩かず走ったら順位に結果は出る！という先生の言葉を信じて、迎えた当日、亀走りでも励ましあって走り切る、が、歩いたり走ったり組を抜きつつ抜かれつつを繰り返した結果、順位は300番台到底走り切った証明にはならず、世の中の理不尽さを知り悔し涙、でも自分は知ってるあの日11km走り切った自分がいたこと

【匿名】


卒業後最初の勝苑祭の時学校に遊びに行つて、こちら辺に自分の上履き置いてたんだよね～と言つて探したら、自分の上履きがまだあつた！後日談ですが、在校生はその残った上履きを整理するために駆り出されてえらく迷惑だったらしい。。

【甘い青春篇】

【匿名】

片思いの女の子が通学するのを、砂利道の自転車置き場で待っていて、何度も何度も、自転車の荷台のゴム紐を巻いては解いて巻いては解いて...待っていた！

◆7回生 関敦子(旧姓細川)

いつも上履きのかかとを潰して履いている男子が、授業中居眠りをしていて、急にビクッ！！とした瞬間に膝が伸びたせいか、サンダルのように履いていた上履きが一番前の席の男子の椅子にかけてあった学ランに命中。黒い学ランに大きな足跡がくっきり付いて大笑いしました。

◆8回生 鈴木康夫

ひたちなか市勝田本町23-2にて、

オーセンティックバー「BAR R」を経営

高校生当時、ミヤタのアトランティスに乗って通学していた私は、クラスの自転車好き4人と連れ立ち、猪苗代湖までキャンプツーリングしたのが、1番印象に残っております。

目的地までは、キツイ上り坂が果てしなく続き、その日キャンプ場側の温泉に入る時には、お尻のパンツのラインは赤むくれ状態だった為、まさに修行のような一泊二日でした。

今では、その頃の友人との行き来も殆どありませんが、私にとって自立した冒険旅行を仲間と過ごした、初めての体験でした。懐かしいです。

【匿名】

私達の入学した時に自販機が設置されたのですが、ジュースを買ってお釣りを確認すると500円玉が4枚出てきたことがありました。あれはびっくりしました。その後、ラッキーとばかりに、後輩と山分け（悪い子）にしてしまったので...笑

◆22回生 山口りえ

購買のパン屋さんに出遅れ気味で買いに行ったら、パンが売り切れ。困ったなあ...と思っていたら、パン屋のおじちゃんが試作品のパンをタダでくれた事がありました。周りにお店がない時代なので、非常に助かりました。すごい個性的なパンでしたけど、、、梅味の餡子と求肥が入ったパンでした。普通の餡子なら美味しかったとおもうのですが...笑 結局実売されませんでした。

【匿名】

修学旅行で、小雨が降ってきて、クラスで注目していた女子が傘を貸してくれた。傘の持ち手に温もりを感じ、気持ちが舞い上がってしまい、告白したら見事撃沈。

【匿名】9回生

通学で、勝田駅で降りたくなかったのでそのまま電車で遠くまで行って、お弁当食べて帰ってきた。友達と一緒に授業さぼったけど、楽しかったな。

【匿名】8回生

グラウンドの南側に養豚場があった。何処かでその臭いを嗅ぐと勝田高校を思い出す。

番外編・熱きスタミナラーメンを語る！

我が青春のスタミナラーメン

永井精一（8回生）

昭和の時代に遡り、スタミナラーメンの発祥について書くことにします。スタミナラーメン歴史学者は数多くそれぞれに諸説紛々ありますが、それを語ることもスタミナラーメンの味わいと思っています。

昭和50年代に青木さんという方が、勝田駅近辺でとんかつ屋、蕎麦屋、中華料理店などを経営していました。スタミナラーメンの発祥の店である「大進」は現在は川崎氏の経営ですが、前進は青木氏の経営で青木氏の名前をとって「大進」と名付けられました。



我流食堂のスタミナ冷し大盛り
経営 柿沼瑞広さん（9回生）
店長 櫻井幸一さん（9回生）

青木氏が、この大進の店長であった長井順一氏に対し学生でも満足でき、地元茨城県産の食材を使ったラーメンの開発を指示しました。長井氏は出身が九州だったこともあり、ちゃんぽん麺、皿うどん、東京で出会ったベトナム麺を参考に生まれたのがスタミナラーメンです。その後、青木氏は勝田駅前に「寅さん」を出店し長井氏が店長に、「大進」は川崎氏が店長におさまりました。

私は勝田高校8回生で昭和56年に入学しました。当時から「大進」と「寅さん」は行列のできるラーメン店で、勝田高校、勝田工業、茨城高専などの学生でにぎわっており、大進派と寅さん派、ホット派と冷し派など、学校でも盛り上がっていました。

その後、長井氏は水戸市に「スタミナラーメン松五郎」を出店し、そこから県内に広まり、現在は茨城県民のソウルフードと言われるまでになりました。

長井氏は後に「ホルモンラーメン玄海」を出店しますが、長井氏にスタミナラーメンは出さないのかと聞いたら「俺がスタミナラーメン出したら、みんな俺のところに来ちまうだろう。それじゃスタミナラーメンが茨城の味として広まらねえよ。」と。今を見据えていたのでしょうね。

スタミナラーメン小ネタ集

◆スタミナラーメンの歴史でも触れたが、仕掛け人の青木さんを紹介しよう。その青木さんのお店が、水戸市御茶園通り「手打ちそば・うどん やすけ」。現在は青木敬一さん（勝田高校8回生）が看板商品のうどんをアレンジして作るのが「スタミナうどん」。元祖などは名乗る気持ちもないものの、うどんでは唯一である誇り、うどんに合うとても優しい味に仕立てられています。

◆スタミナ冷し以外は食ったことがないと思い、ラーメンを注文した。このラーメン、オヤジの顔からは想像もできない優しいスープ。「こんな美味いラーメンは初めてだ。スタミナラーメンより普通のラーメンを売りにしたほうがいいんじゃないか。」と言ったら「何言ってるんだ。うちはラーメン屋だよ。ラーメンを売りたいくてもお前らがスタミナを注文してるだけだ。」

◆少し遅めのランチでスタミナラーメン。オヤジは麺玉が入っていた空箱を8箱重ねて、「今日は

昼だけで400玉売ったぞ。お前もサラリーマン辞めてうちに来い。ハーレーでもベンツでも乗れるぞ。」今思えばその道もあったかも。

◆スタミナホットを配膳するとき、どんぶりを持つオヤジの親指がスープに浸かっていた。オヤジ「おまちどうさん、ホットのダブル」。客「オヤジ、指、指、指！」。オヤジ「大丈夫、慣れてるから熱くねえ。」違うだろ。

◆街のそこここ、
「スタミナ冷し」という落書きがある。日本語的には「冷やし」なんだろうが勝田高校生から言わせると「冷やし」じゃなくて「冷し」が寅さん流。



2016年札幌市内の目撃情報
「スタミナ冷やし」Ver.
もあるらしい？

同窓会の歴史

同窓会10年の歴史を振り返って

事務局 広報担当 佐藤真人（7回生）

現在の同窓会活動になって10年を経過しましたが、事務局広報担当としてその10年を振り返ってみました。

母校は創立50周年を迎え、卒業生も1万人を超える大所帯になってきた同窓会ですが、現在の活動スタイルになるまで紆余曲折はありました。第一回卒業生すなわち第1回生が同窓会としての礎を築き、一桁世代の同窓生が中心になって崩れることなく守ってくれたおかげで皆さんから集められた大半の会費はそのまま毎年蓄積されていきました。

一方でその会費の管理が母校主体であったことと、母校が創立40周年を迎えるのに祝賀会が予定されていないことに疑問を感じてFaceBookを中心に各世代の同窓生にダイレクトメールを送ったのが13回生佐藤久彰（現事務局長）さんです。彼の熱意に多くの同窓生、特に大先輩と言われる一桁世代の同窓生の方々も心を動かされ、まずは母校創立40周年記念祝賀会を同窓会主体で開催しようじゃないかと意見がまとまりました。40周年記念祝賀会は参加者400名近くの大盛況で、この祝賀会をきっかけに各世代、各部活などの同窓会が盛んにおこなわれるようになりました。



13回生佐藤久彰さん
2013年3月23日
40周年記念行事総会にて

第1回生同窓会
2018年8月18日
テラスザガーデン水戸にて



この祝賀会の成功が現在の同窓会第二世代のスタートと言ってもよいでしょう。スタートして、早くも今年で10年を迎えました。その間に、皆様からお預かりした同窓会会費も同窓会主体で管理できるようになりました。なお、同窓会会費は同窓生の親睦、連絡費、母校への支援事業など

に使用させていただいており、その会計は役員会で吟味後、監査を経て毎年行われる定例総会で承認を得ております。さて同窓会の活動ですが、多岐にわたっています。

年に数回、役員会を開催し、年間計画案や会計案作成、臨時の議題の対応など、このなかでほとんどの同窓会活動内容が決まります。

2022年度第5回定例役員会2022年9月19日
ひたちなか市ワークプラザにて
母校下山田校長もご臨席



役員会のご案内は現役員向けだけでなく、メールアドレスを同窓会に登録して役員会のご案内を希望すればどなたにも配信されます。役員会への参加はもちろん任意ですが、やる気のある方の参加をお待ちしています。加えて各期代表の同窓会幹事の方々へのご案内も今後は工夫して行いたいと思っています。

それでは実際の活動状況を写真でご紹介します。

定例役員会は茨城と東京で実施。東京で実施した際の二次会で屋形船を貸切って食事会を行ったのがとても懐かしいです。



同窓会東京支部発会記念食事会
2013年6月1日
東京上野「韻松亭」にて

十年の活動を紐解く



定例役員会（東京支部）終了後の屋形船舶上
2018年5月19日

毎年定例総会を実施していますが、右写真は恒例となりました「赤いタオル」贈呈式で、その年還暦を迎える「出席者」に贈呈しています。



2017年定例総会
この時は2回生の還暦のお祝いでした

毎年9月ごろ（近年はコロナ下で中止）、ひたちなか海浜鉄道の車両を貸切つての同窓会親睦列車を実施。同窓生だけでなくご家族お友達もお誘い合わせて参加いただいています。



同窓会親睦列車
往復1時間ちょっとの旅程となります

年間定例行事の忘年会と新年会ではアマチュア落語家をお呼びして「ひすい寄席」を併せて開催しています。この寄席は文化的な行事として定着しています。



社会人落語家日本一 二松亭ちゃん平師匠
キリスト教学園高等学校教頭 斎須先生

他にも母校への支援事業として、キャリア講習会では同窓生の中からスペシャリストを選出し進路選択を検討する高校生向けに母校で授業を行いました。また、高校生、同窓生が参加できる写真教室をプロのカメラマンをお呼びして

開催しました。これらの活動は度々マスコミにも取り上げられ同窓会活動の一端を目にされた方も多いと思います。



オフでも先輩後輩の垣根を越えて母校文化祭への訪問や、高校野球の応援も毎年盛り上がっているようですし、各地で開催されるフェスなども徒党を組んで楽しんでいます。

この10年間で最も大きな行事としては「ウダーベ音楽祭in ひたちなか（母校小学校の校歌を歌おう!）」を成功させたことでしょうか。実行委員は同窓会だけでなく地域の方々もご協力をいただき、まさに同窓会のもう一つのポリシーである地域貢献を果たした行事だったと思っています。



2019年2月3日 於：ひたちなか市文化会館大ホール
ウダーベ音楽祭 in ひたちなか 実行委員会

なお、母校の中等教育学校への昇華に伴い各学年定員の最適化（3クラス制）が実現しましたが、一方で同窓会の収入面ではまさに毎年の会費収入が今までの半分にになります。

今後は皆様方の寄付や協賛金も、

よろしくお願いいたします。

同窓会オブショツ集



三役緊張がほぐれた瞬間
左から大谷副会長、阿久津副会長、黒澤会長
(9回生) (7回生) (5回生)



何かの時の二次会
水戸市南町ねぎ亭 (19回生 日高さん経営)



県警銀杏会同窓会



おちゃめな大先輩 (1回生柳田さん、大貫さん)
元気くん (22回生) の頭は校章と40をデザイン



いつかの総会
磯料理とワインの宿 春日ホテル (10回生 橋本さん経営)



何かの時の二次会
ひたちなか市元町人見屋 (13回生人見孝さん経営)
顔馴染みになれば同窓生のボトルが飲めるかも?!



これからも同窓会活動を
よろしくお願いします!

よりよい社会を築く一員として

櫻井 良種 (11回生)

茨城県立小瀬高等学校校長



県立勝田高等学校の50周年記念、おめでとうございます。

そして、2年目を迎えた県立勝田中等教育学校の益々の発展をお祈りしています。

私は、常陸大宮市にある県立小瀬高等学校で校長として働いています。これまでに、勝田高校の教壇に立つ機会はありませんでしたが、勉強が嫌いだった私が勝高で好きになった数学を活かして、子どもたちや先生方と関わるようになりました。勝高の先生方や仲間たちには感謝しかありません。

私が教員という仕事をしている中で、素敵なOB・OGたちとご一緒する機会がよくあります。同じ学び舎で過ごした方々と改めて出会ったとき、本当にうれしく、私も頑張ろうと力が湧いてきます。これからも、多くの先輩、同級生、後輩たちと縁をつないでいきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

在校生の皆さんも、このような仲間と共に、社会に出ただけだと嬉しいです。お待ちしております。巷では、人材、人財などと言われますが、私はこの言葉が好きではありません。在校生には、かけがえのない自分を大切にし、その上で、次の3つのことを考えて、学校で学び、社会に出て行ってほしいと思ひます。

- ・自分らしくありのままにいられる生き方をしてほしい。

- ・少しでも社会（学校）がよくなるように行動してほしい。

- ・時代とともに変わる「目指すべき社会（学校）」を常に考えてほしい

私も、今の社会が「みんなが希望をもって生きられる社会」に近づくように、できることを一つずつ行動していきます。勝高OBとしての誇りと共に。

勝田高校で学んだ歴史

高木 章三 (5回生)

株式会社 高木製作所 H&C社長



私は勝田高校の5回生で、卒業後は映画監督などというものを目指して東京の大学に行きました。一緒に映画をやっていた仲間の中には現在テレビディレクターや脚本家として活躍している人もいますが、私の方は関心が哲学や歴史といったものに移ってしまった事と、父親が経営していた金属加工会社が不振になってきたことなどがあって、大学卒業後は早々に帰郷してしまいました。

帰郷後にしたことは父親の会社の立て直しでした。全国を回っての新規受注、新しい社員の採用や育成、新鋭の設備の導入、自社製品の開発など、会社を引き継いでからすでに30余年、社員数は3倍、売上は6倍くらい、取引先も国内外400社ほどになりました。第2工場も市内の工業団地に建設しました。このような業種としては成功した方だと思います。

工業技術も経済や経営も学んでいなかった私が会社経営をここまでやって来られたのは、先に述べた哲学や歴史を学んだことにあります。種を明かせばそもそもは高校の世界史で習ったものでした。大学時代、「孫子」「君

会員寄稿

主論「史記」ヘロドトスの「歴史」などを読破しましたが、これらは非常に経営に役立つ書物でした。経営上の成功は殆どがこれらの書物によるものです。

高校で習った物の中で、一番役立っているのは社会科で、中でも世界史でした。もちろん、日本史、倫社、政済も大変役立っています。地理Aが世界史との二者択一で選択できなかったことは悔やまれます。製造業に従事していながら、数学や理科の必要性はあまり感じません。国語力は大事だと感じる事がありますが、英語はポケトークやGoogle翻訳の登場で、必要性がぐっと減りました。

さて歴史に話を戻しますと、六十を過ぎて同じ歴史でも地元のものに興味を持つようになりました。出身校である勝倉小学校は、かつては常陸平氏や江戸氏の支城である勝倉城の城跡だし、今度祝賀会がある長寿荘は八幡太郎義家に滅ぼされた地元豪族の大氏の屋敷跡です。幕末の水戸藩の命運を決めた天狗党の合戦も現ひたちなかで繰り広げられました。これからは地元の歴史なども調べたり、広めたりしていきたいと思っています。

50周年によせて

高村 晃弘（19回生 オケ部）

海浜鉄道株式会社

管理部駅務課駅務係長



茨城県立勝田高等学校、創立50周年おめでとうございます。このようなときに文章をよせられるという機会をいただくことができ、二つの意味でとても嬉しいです。

まず一つの嬉しさは、私が高校2年の時に創立20周年記念ということで式典に参加していたからです。当時の勝田市文化会館、現在のひたちなか市文化会館で、所属していたオーケストラ部はシューベルト作曲の交響曲第8番「未完成」の第一楽章を弾かせてもらいました。いざ始まるとなったときに客席はなかなか静まらず、指揮者でもあった顧問の本田忠義先生が客席に向かってお茶目に口元に人差し指を当てたことを、今でもはっきり覚えています。客席はすぐに静かになり、スムーズに弾くことが出来ました。私の高校生の思い出はチェロを弾いたオーケストラ部のものがほとんどです。

もう一つの嬉しさは、私は数か月前に命を失っていた可能性があり、文章をよせるということが出来るようになったのが最近になってからだからです。今年5月に倒れてしまい、4日間意識不明の重体に陥りました。幸いにも発見が早かったこともあり、運よく何も障害が残らずに社会復帰することが出来ました。退院できることが決まった日にNHK交響楽団の演奏を病院のテレビで観たことは忘れることが出来ません。その演奏会は倒れる前の4月に実際に聴きに行ったもので、メインの曲はベートーヴェン作曲の交響曲第7番。高校3年の定期演奏会で弾いた曲であり一番好きな曲。病室で聴いて涙が出ました。生きていなければ聴けなかった曲、元気になればまた聴きに行くことが出来る曲だとあらためて感じたからです。私の趣味の一つは音楽鑑賞。高校のころからの趣味が今でも続いていて、それに元気づけられました。

最後に私の勤務先のPRをさせていただければと思います。ひたちなか海浜鉄道湊線は第三セクター方式で運営されています。地元密着の鉄道会社です。地元の方々が乗ってくれるからこそ運行できています。後輩たちはたくさん乗ってくれていますし、職場体験などにも来てくれています。私自身もキャリア教育講演会などでつたない話をさせていただいたこともあります。これからも鉄道会社の一員としての本文を全うしつつ、様々な形で会社としても個人としても、勝田高等学校や勝田中等教育学校の力になればと思っています。



勝田高校を卒業して 渡邊 美樹 (37回生) ひたちなか市役所職員

勝田高等学校を卒業して、約10年経ち、時の早さに驚きます。私にとって高校生活は、とても過ぎ去るのが早く、充実していました。

学業では、学習館で休日や夜遅くまで、友人と勉強に励んだことを今でも覚えています。



また、学業面だけでなく、行事や課外活動も語り尽くせないぐらい思い出があります。野球応援やクラスマッチ、生徒会活動やオーストラリア研修。そして、ひたちなか市高校生会（現ひたちなかリーダーズクラブ）というボランティア活動。

学業でも忙しく大変な毎日でしたが、先生方は学業以外で私が様々なことに挑戦することを応援し、見守ってくれました。人前に経つことが苦手だった私でしたが、おかげで成長できました。様々な経験ができたこと、たくさんの方と出会えたことは、私の財産です。

現在、ひたちなか市職員として日々の業務に励んでいます。今でも高校時代に様々な活動においてお世話になった方や勝田高校の先輩方の助言をいただきながら、日々の仕事に励んでいます。

これからも今までの経験や人との繋がりを大切にし、勝田高校の卒業生としての誇りを持って精進していきます。

同窓生の活動

亀井則道 (13回生) 学童用水彩絵具画家

母校勝田高校の渡り廊下や、学習館に、ハガキサイズの絵を飾らせていただき、定期的に作品を入れ替えていただきました。現在は、少し大きめの作品に入れ替えさせていただきました。私の作品の中でも特に人気の高い作品を飾らせていただいています。勉強や生活に疲れた後輩たちのささやかな癒しになってくれたら良いなあって思っています。さて、私事ですが、近日ギャラリーサザにて個展を開催しておりますので、もしよろしければ足をお運びいただき、母校の後輩たち同様、皆様の癒しになっていただければ幸いです。

「亀井則道水彩画展～学童用水彩絵具の世界Vol.3～」
2022年11月8日(火)～14日(月)
ひたちなか市サザ本店にて開催

亀井則道水彩画展
～学童用水彩絵具の世界Vol.3～
2022年11月8日(火)～14日(月)
AM 10:00～PM 6:30(最終日PM 3:00まで)

GALLERY SAZA
〒312-0943【サザコーヒー内】
ひたちなか市中央通りE-18 1F
PHONE 029-274-1151
FAX 029-274-1010

サザ
SAZA COFFEE
SAZA COFFEE

同窓会倶楽部活動

勝田高等学校同窓会ゴルフ倶楽部

有志により結成、2022年度定例総会にて承認、発足。

■発足趣意

- 1) 同窓会会員の懇親を深めることを目的とする
- 2) 勝田高等学校同窓会ゴルフ倶楽部杯として年数回のゴルフコンペの開催

■役員構成

勝田高等学校同窓会ゴルフ倶楽部

顧問：大貫 裕治（1回生）

会長：野木 滋（2回生）

副会長：国井 謙一（13回生）

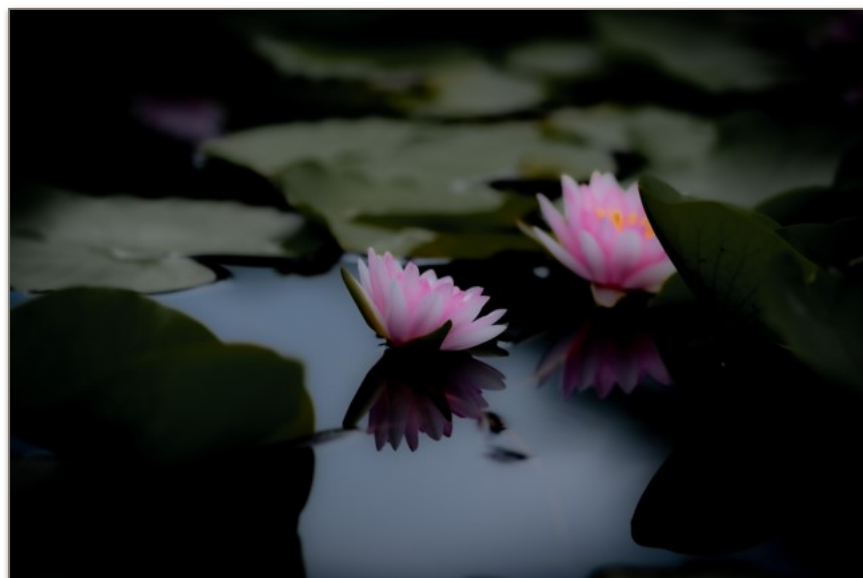
事務局：小池 光浩（7回生） ゴルフ場担当

：佐藤 久彰（13回生） 通信・懇親会設定等

東京支部：川村 尚弓（16回生）



第一回同窓会杯ゴルフコンペ
2022年8月23日桂ヶ丘カントリークラブ



写真同好会活動報告

写真同好会では身近な被写体から機材を担いだ山奥での撮影まで幅広く活動中です。撮影した写真をFacebookにアップして、撮影の方法や苦労話などを共有しています。

担当 佐藤マコト（7回生）



撮影 すいれん、天の川：永井精一（8回生）
ねこ：佐藤真人（7回生）

同窓会では各種クラブ活動を応援します。新しくクラブを設立したい場合は最寄りの同窓会役員にご相談ください。また既存のクラブ活動に興味がある方は担当者へ直接連絡するか、同窓会事務局宛にお知らせいただければご紹介します。

役員会だより

【役員会概要】

○2021年度はコロナ下ということもあり、大きな行事は基本的には自主参加で企画されました。そのため出席人数は普段よりは少なめでしたが、役員会、行事含めて活発な議論もされたようです。その中で、2022年度総会に向けて新たなクラブ活動（ゴルフクラブ）の発足と、母校創立50周年記念として、本学とも希望を調整して本学過去の表彰記録などを飾る棚の贈呈について議論されたました。2つの議案については2022年度総会にて承認され実行予算化されています。

本学創立50周年記念祝賀会実行委員会の様子



○2021年度後半から2022年度前半にかけては母校創立50周年と併せて同窓会でも記念祝賀会を実施する、ということで祝賀会実行委員会を組織（実行委員長阿久津隆男さん7回生）し普段の役員会に加えて記念祝賀会に関する議論も行われました。加えて、母校の記念祝賀会実行委員会にも同窓会から一部役員が参加して、同窓会の立場から忌憚なく意見をお伝えし、母校記念祝賀会の成功に向けて寄与できたと思います。



役員紹介

会 長	黒澤 敦（5）
副会長	阿久津 隆男（7） 大谷 浩一郎（9）
会 計	小池 光浩（7） 太田 真理子（13）
事務局 長	佐藤 久彰（13）
総務	鈴木 道生（26）
広報	佐藤 真人（7）
常任幹事	鹿志村 武史（5） 永井 清一（8） 植野 健一（11/市役所） 平野 孝久（11） 萩谷 公康（11） 大内 浩（11/市役所） 荒蒔 但尚（11） 人見 孝（13） 鬼澤 豊孝（13） 黒澤 務（13） 依 はるみ（13） 藤谷 美幸（13） 中里 隆幸（13） 関谷 久美子（13） 平根 英一（13/県警） 亀井 則道（13） 高丸 誠司（14） 堀川 智也（18） 谷村 勉（20/県警） 畠山 元気（22） 鈴木 達也（22） 田中 優子（23） 大内 聖仁（24） 二川 智之（26） 大内 裕輔（27/高校） 藤田 崇広（29） 高野 龍（31/市役所）
監 査	所 義弘（7） 国井 謙一（13）
顧 問	永井 資郎（1/初代会長） 柳田 尚久（1/前会長） 大貫 裕治（1/前監査） 野木 滋（2/前副会長）

★：新任、再任



第11回同窓会総会二次会 2022年6月25日
鮮魚・かに・貝の居酒屋 かにや(9回生 新井清史さん経営)にて

★同窓会に参加しよう！

- 1) イベントや事業のお誘いは、下のQRコードからメールアドレスやお名前などの登録をお願いします。
- 2) 役員会に参加しよう。役員会では、事業の計画・予算の執行・委員会を設置し、顔の見える形で運営されています。また、zoom会議も逐次取り入れています。現在、同窓会では、若い方々のご意見を渴望しております。是非とも、お力を貸して下さい。案内は、メール、勝田高等学校FB支部、公式ホームページにてお知らせしていますので是非ともアドレス登録下さい！



●編集後記：勝田高校同窓会は母校の中等教育学校への昇華を前にして、同窓会の名称を新たに検討しました。その結果「勝苑会」として、2020年の同窓会総会にて承認されました。「勝苑会」の名前の由来ですが、母校で三年ごとに開かれる文化祭「勝苑祭」から取っております。では、「勝苑祭」の名前の由来は？ 6回生である中田由彦さんが、第二回勝苑祭のイメージロゴを担当されたそうで、中田さんに伺うと、どうやら第一回の勝苑祭が開かれる際(昭和50年10月)、名称を公募した結果、とのことらしいです。そして、その名前の名付け親は1回生「小川智子」さん、25周年記念同窓会名簿では「佐々木智子」さんである、というところまではたどり着けました。ただ、現在の個人情報保護下のなかで、むやみに検索してご本人に連絡、確認するところまでには至っておりません。ですが、命名の際の想いなど、いつか伺ってみたいと思っております。もし、小川智子さん(佐々木智子さん)をご存知の方がいらっしゃいましたら是非とも同窓会の現状をお伝えいただき、可能であればインタビューさせていただけるようお願いください。

同窓会事務局広報担当 佐藤真人

勝田高等学校 同窓会

検索



校歌

田口五郎：作詞

臼井英男：作曲

筑波の峯の空青く
白雲あわく よぎるとき
あたらさきの 学舎に
伸びゆくいのち
われら ひらかん

旭日高き 東海に
熱砂をかたく ふみしめて
おお建学の 意気高く
限りあるみの
ちから ためさん

那珂の流れに 波さわぎ
暗雲ふかく とざす日も
いざともがらよ 手をとって
明日の郷土を
ともに になわん

茨城県立勝田高等学校同窓会

【勝苑会 会報】

<http://katsuta-ob.org>

info@katsuta-ob.org

令和4年10月吉日発行

発行責任者 黒澤 敦(5回生)

■編集／構成／デザイン

佐藤 真人(7回生)

佐藤 久彰(13回生)

田中 優子(23回生)

鈴木 道生(26回生)